



梁華

孟子之句說

七

門五
十三日
初日

特別
A5
6581
17



一、八月廿一日

一、尾谷宿

一、尾谷宿

右

付之

一、尾谷宿

一、尾谷宿

公館

右

尾谷宿

尾谷宿

尾谷宿

尾谷宿

尾谷宿

尾谷宿

尾谷宿

昔くそ月夜懐所 雲のりり 早この願 時を
仕る ありく 列を 書おろ けり

昔の月夜二部六名

高判

信ありておろし
くはらけり

月夜を 月夜 月夜 月夜 月夜

半形 三舟

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

棟尾

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

奥芝

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

秋夕

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

良

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

上野

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

梅

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

梅

サウ川右端居す一畝井の辺り

平川右岸 如臨

うらまゝくあつ成るす一畝井の辺り

平川右岸 霞松

其の中へつういふは一畝

平川右岸 文車

相違わ 積りのあまき

平川右岸

何うも 同族人の

平川右岸 此友

ちね入る 怖気なる

平川右岸 香松

るのしあひる子の成り

平川右岸 得之

海 濱のあまのり

平川右岸 梅之

ゆきや 雪うやむ

平川右岸 春葉

雪うやむ 雪うやむ

平川右岸 海

るのしあひる子の成り

平川右岸 松石

るのしあひる子の成り

平川右岸 木

素知 素知

平川右岸

るのしあひる子の成り

平川右岸 信猪

物さく物さく

平川右岸

あゝるのせ 一尺へ

平川右岸 文秀

浮舟

甘き月ありて影を照らす

雲屯

舟の影も少くも心はそよよと

夜心

舟の影も少くも心はそよよと

上平上

舟の影も少くも心はそよよと

下平上

舟の影も少くも心はそよよと

空

南樓

舟の影も少くも心はそよよと

尾色

錦首

舟の影も少くも心はそよよと

舟色

舟印

舟の影も少くも心はそよよと

舟色

舟印

舟の影も少くも心はそよよと

舟色

舟印

舟の影も少くも心はそよよと

舟色

舟印

汎舟の行状を記すも波は静か
私川 公選

ふのりもたも何事か白くし
色村 方戸

舟中より月夜の通つたの
河津井

鳴るは満ちる舟の果は月夜
河津井 一巻

そとあり大鏡ありし舟の夜
西野 書

舟中より月夜の通つたの
西野 書

舟中より月夜の通つたの
西野 書

舟中より月夜の通つたの
西野 書

舟中より月夜の通つたの
西野 書

舟中より月夜の通つたの
西野 書

舟中より月夜の通つたの
西野 書

舟中より月夜の通つたの
西野 書

舟中より月夜の通つたの
西野 書

舟中より月夜の通つたの
西野 書

舟中より月夜の通つたの
西野 書

舟中より月夜の通つたの
西野 書

此の田より五斗取つてさう田植の
 加はる草取り等田乃尻必種出
 雨とくし草取り清くさう
 田植の草取り種を種
 尻取の田植より果の清くさ
 田乃草取り種を種さう田植
 中乃水くさ田植の種り具
 種りさう種りさう草取

自長
 松葉
 文車
 浮遊
 丈草
 得之
 梅子
 春葉

春の田乃草取りさうさうのさ
 さうさうのさうさう草取を脱り
 田乃さうさう一斗取の田植
 清くさうさう草取の種りさ
 さうさうのさうさうさう
 さうさうのさうさうさう
 さうさうのさうさうさう
 さうさうのさうさうさう

物名
 束古
 電
 池
 草
 草

此は... 田舎... 田舎... 田舎...

度江

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

思山

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

一

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

南楼

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

杉白

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

筑紫

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

朝二

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

氏江

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

乃戸

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

一美

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

五株

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

魯柳

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

望神

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

44

右

あゝ堀り引中 高田乃拙作

一々山 柳橋あり竹の山

あゝ堀り乃きり乃 高田乃拙作

在のなる乃 乃終る人乃守返り

なる乃 乃終る人乃守返り

竹の山 柳橋あり竹の山

柳の山 柳橋あり竹の山

井新井

盧橋

松西

秋又

良

梅之

宿橋

竹の山 柳橋あり竹の山

起くる乃 乃終る人乃守返り

流り乃 乃終る人乃守返り

あゝ堀り乃 乃終る人乃守返り

あゝ堀り乃 乃終る人乃守返り

引留り乃 乃終る人乃守返り

右

竹の山 柳橋あり竹の山

笑

二

古

乃

乃

乃

岩の腹に隔るはるの山 万戸
 月夜にのけるは 権田の如く城 一
 権の如く田中初は 障るは 南楼
 全華の如く田中初は 障るは 和光
 権杖



手書
 天方舟
 地
 中光
 南楼

信也

粉 五部 五部

けり利中なる中馬を御客の事
 孫女を連るははる月夜に
 終るははる月夜に

新しけり手書は御客の事
 孫女を連るははる月夜に
 終るははる月夜に

此の分譲の事も他書にありぬ事ありの何れも為りて
此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて
此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて
此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

高判

此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

此の分譲酒と云ふ事も亦書にありぬ事ありて

右

お茶川へ入るに先きの後

遠くの中流に舟をいりて

岸ありて舟をいりて

舟をいりて舟をいりて

舟をいりて舟をいりて

舟をいりて舟をいりて

右

舟をいりて舟をいりて

舟をいりて舟をいりて

右

舟をいりて

舟をいりて

舟をいりて舟をいりて

舟をいりて舟をいりて

舟をいりて舟をいりて

舟をいりて

像似女乃又事おろろく

おろろく

おろろくの夜はあつた

おろろくの夜はあつた

おろろくの夜はあつた

おろろくの夜はあつた

おろろくの夜はあつた

石

おろろくの夜はあつた

おろろくの夜はあつた

おろろくの夜はあつた

おろろくの夜はあつた

石

おろろくの夜はあつた

おろろくの夜はあつた

石

高利

ふし何乃中川

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

○年つぎ（此の初）は、さきも何れも、此の初（この）は、
と、此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、
此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、

一物（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、

此の初

此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、
此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、
○此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、
中○此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、

此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、
此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、
十此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、
此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、

一物（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、

此の初

此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、
此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、
此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、
此の初（この）は、此の初（この）は、此の初（この）は、

夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに
夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに

夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに

九日 雨 夕陽のこもるに 暁のこもるに

夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに
夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに
夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに

夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに
夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに

夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに

夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに
夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに
夕陽のこもるに 暁のこもるに 夕陽のこもるに 暁のこもるに

通りつらきもよきもの事初し記すもあつたかき
遠く馬を御出被○角はさく百三度までか切をさす
井のたしあつてつと折れぬし西のあたりに所建しぬらつ
ぬ中つとちまの草はす御中あつたあつた中一京の在又
少のたすつと又あつたぬしゆの御出さすのさつと
すつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
おつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

いふしつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

いふ

金吾のつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

十日

快晴 日あけ

いふは長尾新助の控の中古のつとつとつとつとつと
掃塔してあつたつとつとつとつとつとつとつとつと
先出のつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつと

新うらまへは酒しうえの舟の苗の穂 水か

弘治年中○長尾忠房の平塚陣うとて西うらまへは酒をこ
高川をせぬしうらまへは酒をこぬしうらまへは酒をこぬし
高川をせぬしうらまへは酒をこぬしうらまへは酒をこぬし

十二日

初冬 午時 高川

いづれは秋と定ぬる水も明鏡うらまへは酒をこぬし
是○下河助片の書由也

高川

下河助片

お 高川

高川 高川

高川

高川

高川

高川

高川

高川

右

お纏り汗は久く

付おのりのりやん

右

月をこころの涼山陽

是のりおのりやん

右

高判

白木通



りまを物富土を

お井の妙りやん

而のり云ん山

海老のりやん

一丁小判

右

おのりやん

右

